


読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 佐々木 泰
 編集人 片岡 伸子
 会員の購読料は
 会費の中に含まれる

No.688

- ★「こどもの読書週間」ポスター完成(2・3頁)
- ★「伊藤忠記念財団 子ども文庫助成」募集要項(5頁) 定価60円



「こどもの読書週間」によせて

公共図書館の充実 子どもの読書環境整備の第一歩

公益社団法人日本図書館協会
 児童青少年委員会委員長

しま ひろし
島弘

4月にはいろいろな記念日があります。4月2日は国際児童図書評議会が制定した「国際子どもの本の日」、4月23日は国が定めた「子ども読書の日」です。この日は、「サン・ジョルディの日」「世界図書・著作権デー」でもあります。4月23日からは、読書推進運動協議会主催の「こどもの読書週間」が3週間にわたって行われています。このように4月は読書に関わる記念日などがあり、各団体では毎年4月から5月にかけていろいろな行事を開催しています。

あまり知られていませんが、4月30日は「図書館記念日」です。図書館法が公布された日にちなんだものです。全国には公共図書館が約3300館あり、一部を除いてほとんどの図書館で子ども本の収集・提供、読書相談、おはなし会などの各種事業を行っています。おはなし会は、日常的に行っていますが、「こどもの読書週間」にあわせて、工夫を凝らした事業を行うところも増えてきました。

子どもへの図書館サービスは、来館される子どもや親らへの直接サービスだけでなく、他の機関との連携や支援も積極的にを行っています。いちばん多いのは学校図書館との連携や支援です。学校で調べ学習を進めるとき、学校図書館の役割が大切になります。しかしながら、学校図書館の蔵書は決して多くはありません。また、調べ学習では子どもの本だけでなく、大人の本も有効です。調べ学習用の資料などの支援が各地で行われています。

図書館では、大量の本を長期貸し出す団体貸出や、学校を訪問し、おはなし会、本の紹介なども行っています。最近是小中学生にIDを配送し、電子書籍を利用してもらうというところもできましました。それぞれの市区町村では、その街にあった学校、学校図書館との連携や支援が行われているのだと思います。

昨年、東京の西東京市では、図書館と小学校が連携し、ビブリオトークが行われました。ビブリオトークとは、自分のお気に入りの本をその理由とともに紹介、参加者が語りあう活動です。図書館司書が小学校の4年生と5年生のクラスに行き、ビブリオトークを行い、子どもたちは本の紹介の方法などを学びます。司書のビブリオトークをみた数日後、クラスでは、グループにわかれ、お気に入りの本を紹介しあい、台本をつくり、発表し、その後はトークタイムです。子どもたちが紹介した本はメッセージカードにし、近くの図書館で掲示し、他校の子どもたちにも広がっています。

この活動は、図書館と学校との連携の一例です。ある校長先生は「大人が子どもに本を薦めても、反応しない場合が多いけれど、子ども同士で薦めあうと読むことが多い」と感想を述べられました。この連携は「入り」と「出」が司書、「間」の指導は教員です。

このような連携を進めるためには「職員」「資料」「運営体制」が大切です。しかし今、図書館は正職司書の減少、図書費の減少、運営体制の複雑化など多くの課題を抱えています。子どもの読書環境を支える公共図書館の充実が求められています。



あいことばを唱えよう！

2025・第67回 こどもの読書週間 4/23～5/12

みなさんごいっしょに

「ヒ・ラ・ケ・ホ・ン！」

公益社団法人 読書推進運動協議会は3月中旬、「2025・第67回 こどもの読書週間」を開催するにあたっての協力をお願いを、全国の読書推進運動協議会、公共図書館、報道機関、関係者などのみなさんにお送りいたします。

今回の標語は721点の応募作から選ばれた「あいことばはヒ・ラ・ケ・ホ・ン！」。作者の羽鳥亜希子さんは、「子どもたちが勢いよくガバツと本を開く姿を思い浮かべながら考えました。本の中には出会いがあり、何度も会いに行きたくなる心を動かすなにかがあります。多くの子に本を手にとつてそんな体験をしてほしいと願いを込めて」と、メッセージをよせてくれました。ワクワクする物語や絵本だけでなく、画集や写真集など「表紙を見ただけで開きたくなる本」など視覚にも訴える図書展示も、おもしろいかもかもしれません。

開いた画集にじつと見える男子。古今東西の絵から感じるのは、多様な世界へのあこがれでしょうか。鮮やかなイエローで、貼ると周りがバツと明るくなるポスターとなりました。

当協議会のホームページの素材集では、例年同様にポスターとマーク標語をあしらったロゴ(タイトル)の画像データと、ポップ、しおり、ブックカバーのPDFデータを2月末より順次、掲載しております。展示や、配付物への掲載、SNSでの投稿などにご活用ください(スペースに応じての多少のサイズ変更は認めます。その他のデータ加工は、ご遠慮ください)。なお、今年のポスターもとても鮮やかな発色のため、ホームページ上では十分に色を再現することがむずかしく、広報誌などに掲載すると印象が変わるかと思えます。素材集データだけではなく、ぜひ、ポスター現物もあわせてご掲出、ご活用をお願いいたします。



昨年の「こどもの読書週間」の様子
(千葉県浦安市立中央図書館)

送付)、学校図書館(全国学校図書館協議会を通じて送付)、書店(日本出版取次協会を通じて送付)読書推進運動協議会会員、後援団体、関係団体などへお送りします。残部もごさいいますので、希望者は事務局までお申しつけください。

【読書推進運動協議会 事務局】

TEL 03-52244-5270

FAX 03-52244-5271

e-mail info@dokusyo.or.jp

(ドメインは「dokusyo」です。

ご注意ください)

ホームページ

<http://www.dokusyo.or.jp>

2025・第67回「子どもの読書週間」開催についてのお願

公益社団法人 読書推進運動協

議会は、恒例の春の行事「こどもの読書週間」を本年も主催いたします。

2024年度「こどもの読書週間」の行事主催者数は2000近くに上りました。全国の読書推進

の現場において、積極的な活動が展開されています。現在、社会ではデジタル化がますます加速し、出版と読書をとりまく環境にも多くの変化と課題があります。そのような状況だからこそ、子どもたちの読書体験をサポートすることがますます重要になると考えています。

今年の標語は『あいことばはヒ・ラ・ケ・ホ・ン!』です。期

間中関係各位によって全国的に実施される行事は、この標語を中心に展開されることとなります。

幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことが、次の世代を担う子ど

もたちにとつて、どんなに大切であるかはいまさら申しあげるまでもありません。本を読み、読んで

考え、考えて行動する子どもたちが育つならば、青少年に関する多くの問題点も解決されるのではないのでしょうか。

「こどもの読書週間」は子どもたちに、よい本やよい雑誌に親しむことをすすめる、読書の楽しみや喜びを知らせ、正しい読書の習慣を身につけてもらおう好機です。そして同時に大人にとつては、子どもの

読書がいかに大切なことか、よい本や雑誌を手渡すためにはどういう努力をしたらよいか、ということについて考える機会でもあるといえましょう。

公益社団法人 読書推進運動協議会では「こどもの読書週間」のテーマとして『家庭・地域読書のすすめ』をとりあげ、「家庭・地域に子ども文庫をつくらう」「親子読書を育てよう」など、家庭・地域における、子どもの読書推進

に力をそそいできました。

家庭における読書環境の整備は、以下の3点がたいへん重要です。

(1) 幼児には父母が本を読んで聞かせてあげる。

(2) 子どもたちの身近にいつも本を置くことを考え、毎日たとえ短い時間でも本を読むことをすすめる、本を読むのを聞いてあげる。

(3) そして大切なことは、父母みずからが読書する姿を、子どもたちの眼にふれさせる。やがて、そこに本を中心とした話題が生まれ、親子の対話に発展することは明らかです。

地域の公共図書館、公民館、PTA、学校図書館、幼稚園・保育園、子ども文庫・地域文庫のボランティアなどによる、子どもたちへの読書指導、読書普及活動、これらががっちり手を組んでいくならば、正しい判断力のもとに行動できる青少年の育成に、貢献できることを確信しています。

なお、2001年12月12日に

公布されました「子どもの読書活動推進法」により、「こどもの読書週間」の始まりの日である4月23日が、「子ども読書の日」と制定されております。「こどもの読書週間」とともに、「子ども読書の日」もおおいに広めていただきたいと思っております。

記

名称 2025・第67回 こどもの読書週間

主催 公益社団法人

読書推進運動協議会

(主要構成団体) 日本書籍出版協会、日本雑誌協会、教科書協会、日本出版取次協

会、日本図書館協会、全国

学校図書館協議会、日本書

店商業組合連合会)

後援 文部科学省、日本新聞協会、NHK、日本民間放送連盟、日本PTA全国協議会、

全国市町村教育委員会連合

会

「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

期間 4月23日から5月12日まで

標語 あいことばは

ヒ・ラ・ケ・ホ・ン!

《行事内容》

●ポスターおよび広報文書配布 (公共図書館、全国小・中・高等学校図書館、有力書店、関係出版社、報道機関など)

●その他、都道府県の読書推進運動協議会、関係各団体の協力を得て、各種行事実施の推進

《各機関へお願いの行事内容》

●公共図書館、公民館、小・中・高等学校の学校図書館などにおいて「子どもの読書研究会」「子ども読書のつどい」「親子の読書会」「大人による子どもの本研究会」「子どもの読書相談」「児童図書展示会」「児童文学作家による講演会」「児童図書出版社との懇談会」などの開催。「読書感想文・感想画コンクール」の実施

●都道府県の読書推進運動協議会による都・道・府・県単位の「子ども読書大会」などの開催

●出版社、新聞社、放送局、文化団体などによる、被災地域、児童養護施設、矯正施設などへ向けた「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

■伊藤忠記念財団・2025年度 子ども文庫助成事業

贈呈先候補募集について

公益社団法人 読書推進運動協議会は、1976年以来、公益財団法人 伊藤忠記念財団(理事長・鈴木善久)の「子ども文庫助成事業」に賛同し、毎年、助成贈呈先の案件募集の告知と事前調査を行っています。各道府県の読書推進運動協議会、全国の公共図書館をはじめ、ご協力をお願いする機関のみならず、文庫や実演活動を行っている個人・団体へご喧伝のほどをお願いいたします。

○実施要領(抄)

1、助成の対象

子どもたちに本を届けることを目的に読書啓発活動を行っている国内外の団体・施設・個人で、今後活動を継続する意志のある方。
(I)子どもの本購入費助成(購入費助成) Ⅱ子ども文庫、読み聞かせ団体、子ども文庫連絡会、子ども食堂(支庫併設)、学習支援ボランティア、外国にルーツのある子どもを対象とした活動など。3年以上の活動実績があること。
(II)病院・施設子ども読書活動費助成(病院・施設活動費助成) Ⅱ小児病棟、障がい児施設、養護施設などの子どもたちに対し、読書活動を行っているボランティア団体や個人および施設、非営利団体。

3年以上の活動実績があること。

(III)子どもの本100冊助成(100冊助成) Ⅱ購入費助成、病院・施設活動費助成の対象者と共通。活動歴不問だがすでに活動を行っていること。

(IV)子ども文庫功労賞(功労賞) Ⅱ子どもの読書啓発活動に長年(20年以上)携わり、貢献されてきた個人。推薦は他薦にかぎる。

(V)特別支援学校図書支援助成(特別支援助成) Ⅱすでに開校済み、かつ学校図書館運営などを通して読書啓発活動を行っているすべての特別支援学校。

※(I)(II)(III)(IV)ともに、以前に伊藤忠記念財団の助成を受けている場合は、2022年度以前の受領団体が再応募可能。

※収益事業を本業とする法人、公共機関は応募不可。ただし、(II)と

(V)は一部公共機関も応募可。

(I)購入費助成 Ⅱ一律30万円を助成。(A)(B)のプログラムよりひとつ選択。①児童書・絵本などの書籍、紙芝居、人形劇、パネルシアターなどの購入に15万円以上使用する。その他の費用(講習会の開催費・参加費、書架・ブックコートフィルム・紙芝居やパネルシアターの舞台など備品購入費)は15万円まで。②伊藤忠記念財団が指定する「指定研修会」の参加費、交通費・宿泊代、出張講師派遣の講師謝礼・講師交通費、会場費などに全額を充当。「指定研修会」は応募要項を参照。「指定研修会」以外の研修会の自主開催については、応募者が文庫連絡会やそれに準じる組織であり、応募時に研修会内容、予算を明示することを条件に対象とする。

(II)病院・施設活動費助成 Ⅱ(A)に加え、障がいがある子どもたちに対する読書支援機器などの購入およびバリアフリー図書作成のための費用として一律30万円を助成。

(III)100冊助成 Ⅱ伊藤忠記念財団が選書した「小学校低学年向けセット」「小学校中学年向けセット」「小学校高学年向けセット」「乳幼児セット」(各セット100冊、約15万円相当)より希望の1セットを選択。または、4セットに2000年以降に出版された本を中心とした「50冊リスト」と、過去5年間に刊行された図書による「新しい本50冊リスト」を加えた600冊より任意で100冊を選ぶことが可能。

(IV)功労賞 Ⅱ賞状、記念品、副賞(30万円)

(V)特別支援助成 Ⅱ一律30万円を助成。学校図書館の蔵書となる児童書、絵本、図鑑などに加え、バリアフリー図書や読書支援機器の入手・作成のための費用にも充当可能。図書の購入・作成費として15万円以上を使用すること。その他の費用(書架・読書支援機器など備品)は15万円まで。バリアフリー図書作成のためであっても、参考書、問題集、教科書等、教材としての役割を主とする書籍は原則対象外。

3、応募選択 Ⅱ助成のなかのいずれかひとつを選択。

4、助成先決定までの流れ
(1)公益社団法人 読書推進運動協議会ほかによる事前調査。
(2)公益財団法人 伊藤忠記念財団職員による現地訪問(購入費助成、病院・施設活動費助成、特別支援助成の国内応募者を予定)。

(3)選考委員会で助成先候補者を選考。
(4)伊藤忠記念財団理事会において助成先対象者を決定(12月中旬)。
5、決定の通知 Ⅱすべての応募者に、結果を書面にて通知します。

●応募要項は左記のサイトよりダウンロード可能
伊藤忠記念財団
<https://www.ite-zaidan.or.jp/>

●子ども文庫助成応募書類の提出期間
2025年4月1日～6月20日(消印有効)

●応募にあたってのお願い合せ・書類の提出(送付)先
〒107-0061
東京都港区北青山2-5-1
公益財団法人 伊藤忠記念財団 助成事業部
TEL 03-34497-2651
FAX 03-34470-3517
メールアドレス
bs-book@ite-zaidan.or.jp

また、同財団では現在、東京子ども図書館と協働製作した冊子『子どものための文庫の手引き』の入手希望者を募集している(送付は5月予定)。こちらの詳細も同財団ホームページで確認できる。

優良読書グループの歩み (3)

2024年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

おはなしグループ マザーリーフ

代表者 千葉 典子

岩手県 関市

〈推薦〉
岩手県読書推進運動協議会

おはなしグループマザーリーフは、絵本の読み聞かせや人形劇、朗読劇などを通して、絵本の楽しさを伝えること、親子などの温かく豊かな関わりあいの一助となることを目的としています。

その前身は、「人形劇団たんぽぽ」。長い歴史がありますが、一度解散し、方向性を同じくする人たちが再結成して2022年におはなしグループマザーリーフとしてスタートしました。活動拠点は、一関市立千厩図書館。現在、メンバー5名はそれぞれ市内各地に住していますが、月に数回練習のために千厩が集まっています。

人形劇団が前身ということもあり、公演は「劇」を土台にしてい

ます。公演依頼があると、小学生には朗読劇、幼稚園や保育園児には人形劇というように対象年齢にあわせて見せ方を変え、同じおはなしでも、エプロンシアターやパネルシアター、ときには紙コップなどの小道具を使うなど、さまざまな表現スタイルを楽しめるよう日々工夫を重ねています。朗読劇では、進行や場面にあわせて打楽器を使って生音を入れて臨場感を持たせたり、人形劇では、使う人形をメンバーが手づくりし、ひとつのおはなしをどんな風に来場者に観てもらいたいのか、練習を重ねるなかでメンバー同士がいてねいにすりあわせていきます。

また、自分たちの感性を豊かにしながら劇のクオリティを高めていくためにプロの劇団公演を鑑賞するなど自己研鑽も大切にしています。劇などを鑑賞したあとは、メンバー同士で気づきを共有し、表現方法など自分たちの劇に取り入れられる部分を反映させています。その際、演じる側も観る側も、

劇を構成する一員としておたがいに對して想像力を膨らませるような心がけています。

私たちのグループのモットーはふたつ。ひとつ目は、「自分たちが楽しむ」こと。絵本や劇は誰でも楽しめるものですが、演じる自分たちがまずは楽しんでいないと長続きはしません。ふたつ目は、「子どもが相手だから」といつて手を抜かず、本気でやる」こと。本気度は、観る人に必ず伝わるものです。子どもたちにこそ本気を伝えるべく、常に全力で臨んでいます。

コロナ禍で激減した公演依頼も少しずつ回復し、昨年度は30回近い公演数となりました。公演場所も千厩図書館併設の千厩ミニシア

ターや市内の市民センター、幼稚園、小学校だけでなく、最近では子ども食堂と連携した場所も加域へと活動の幅を広げています。

私たちの劇は、チームワークがないとできない劇。コロナで自粛中にも練習を欠かさずに続けてきたのは、セリフが飛んでもアドリブであわせて演技をするためでもあります。何度か繰り返し練習することで、誰かがセリフを忘れてしまっても他のメンバーがフォローに入れるようになるからです。実際、公演を観てくれた観客の方からは「一度観ると忘れることができないくらい、いきいきしている」という感想をいただきます。

子どもたちは大きくなるにつれ絵本にふれる機会が少なくなりますが、絵本には大人になつたからこそ気づけるメッセージがたくさん詰まっています。そんな絵本にふれ続けられることが、この活動の醍醐味ですし、メンバーにとって「生きがい」を与えてくれる居場所となっています。

世知がら日常から少し離れ、日常へ温かいメッセージを注ぎ込む。絵本を通してより多くのみなさんに心の栄養をこれからも届け続けていきたいと思っています。



手づくりの人形劇は、準備も舞台も常に全力で。

おはなしボランティア 「まめつつちよ」

代表者 森 治美

滋賀県長浜市

〈推薦〉
滋賀県立図書館

おはなしボランティア「まめつつちよ」は、2010年10月、子どもたちにおはなしを届けたいと始まりました。電子メディア、特に映像から情報を得ることが多い現在ですが、私たちは目の前にいるひとりひとりの子どもたちに、生の声で、耳からおはなしを届け、おはなしを楽しんでほしいと願っています。

おもな活動は、図書館でのおはなし会とわらべうたです。おはなし会は、長浜図書館おはなしの部屋で年4回、季節ごとに開いています。

1部は3歳から、2部は小学生からを対象にし、どちらのプログラムにもかならず、おはなし(ストーリーテリング)を入れるようにしています。1部では、わらべうたも交えながら、短くて親しみやすいおはなしを入れていきます。2部は、小学生の時期にこそ



わらべうた・絵本で子どもたちとのふれあいを楽しむ

たつぷりとおはなしを楽しんでほしいと、設定しました。最近はおはなし会の参加者が低年齢化していると言われますが、回を重ねるうちに、毎回楽しみに来てくれるリピーターさんもできてきました。

詩、科学絵本なども入れた楽しいプログラムを考え、リハーサルにも時間をかけています。子どもたちがおはなしに聞き入っている表情を見ると、とてもやりがいを感じます。

3歳未満の未就園児には、月1回「わらべうたであそぼう」と題し、親子対象にわらべうたで遊んでいます。乳幼児には、絵本やおはなしを聴く前に、親子で目をあ

わせ、体をふれあい、ことばを交わしながら、楽しく遊ぶことが、人への信頼感を育て、読書への道に繋がっていくと考えています。保護者にも声を出して子どもと一緒に遊んでもらい、子どももその年齢なりに、自分から体を動かして遊べるように、おなじ頃を何回も繰り返して、耳になじみ体にしみこんでいくようにしています。子どもたちの笑顔や、かわいい笑い声は、保護者も私たちスタッフも幸せな気持ちにしてくれました。お気に入りのわらべうたを、家へ帰ってから何回も遊んだという話を聞くと、うれしく思います。

伊敷台小学校 朝読ポランティア「いちよっ」

代表者 久米村沙夜香
鹿児島県鹿児島市

〈推薦〉
鹿児島県読書推進運動協議会

読み聞かせを終えた朝9時ごろ、伊敷台小学校のポランティア室に読み手たち（保護者と卒業生

保護者）が集まります。読んだ絵本、わらべうたとともに、子どもたちの反応・気づいたことなどで記録簿の欄が埋まっています。次回読む本を配本して帰る人、しばらく欲談する人、わらべうたをおさらいする人…。十数年間変わらずに続いている風景です。

活動の始まりは2007年、ある転入生のお母さん。前籍校で朝読書の時間に読み聞かせをしていた経験から「伊敷台小学校でもわが子のクラスで読めたら…」と軽い気持ちで、親子読書会で出会った仲間とともに朝読書タイムに読み聞かせを始めました。翌年度からは全学年で活動を開始。グループ名は校章に描かれている「いちよっ」から名付けました。

読み聞かせは、古典といわれる絵本を中心に、詩、かぞえうた、ことばあそび、かがくの絵本などを学年ごとに選んでいます。中学年までに日本の昔話を、5年生から世界の昔話を、6年生には幼いころに読んだ懐かしい絵本も届けるようにしています。絵本の間には季節のわらべうたを取り入れ、また、1学年に1回ずつ素話（語り）を実施しています。

「主役は絵本、読み手は絵本の額縁」。私たちは、子どもが本の世



子どもが卒業してもポランティアを続ける保護者も！

界を自由に捉えられるように表紙に忠実に読んでいます。1年間の読み聞かせの記録は製本して共有しています。

また、新年度に、転入生が教室に案内されるまで待機している時間を利用して、おはなし会を開いています。子どもたちの心細さを少しでもやわらげることができたという思いで始めました。この場での出会い、仲間になった保護者も多数います。

今年から先生も一緒に読み聞かせを楽しみ、子どもと絵本の話共有している姿も見られます。年度末には毎年、子どもたちからメッセージカードを手渡されま

どもたちの成長を感じられることが私たちへのご褒美です。時が経ち、メンバーが入れ替わっても、子どもたちへの思いをいちばん大切に、設立当初の思いをそれぞれが理解し、引き継いで、繋いでいきたい。この地域の仲間、子どもたちに豊かな本を届け、成長を見守る。この場所と時間を大切に守っていききたい。それが私たちの心からの願いです。

2025・第67回
こどもの読書週間 4/23~5/12



あいことばは ヒ・ラ・ケ・ホ・ン!

■4月2日「国際子どもの本の日」

オランダの代表的な児童作家・ 画家のポスターを配付

一般社団法人 日本国際児童図書評議会(JBBY)は、4月2日「国際子どもの本の日」ポスターを作成し公共図書館などに配付した。

「国際子どもの本の日」ポスターを配付した。JBBYでは、3月7日〜20日にかけて、「JBBY子ども本の日フェスティバル」を、童心社(東京都文京区)と世界文化社(東京都千代田区)を会場に開催。世界の子どもの本を集めた展示、作家による絵本作りワークショップ

このポスターは、国際児童図書評議会(JBBY)加盟国が持ち回りで作成するもので、今年はおランダが担当。自由な発想を謳う「絵ことば」をテーマに、オランダの児童書大使にも選ばれたリア

■「2023年度全国読書グループ総覧」発行へ

図書館・類縁機関みなさまの ご協力に感謝いたします

公益社団法人 読書推進運動協議会は、全国公共図書館協議会さまのご協力のもとに2023年9月〜12月に実施した「2023年度全国読書グループ調査」の報告書となる『2023年度全国読書グループ総覧』の刊行を、2025年3月末に予定しております。

本調査の集計概況(速報値)は、昨年7月に発行した「読書推進運

動」680号で、ご紹介いたしました。その後、1図書館さまより追加のご報告をいただきました。最終的な、回答機関数は1960(前回は1万1697(前回は94.6%)となっており。ご協力いただいた図書館・類縁機関さまへは、各都道府県立図書館さま、道府県読書推進協さまを通じ、4月〜5月にかけてお送りいたし

や、図書館員体験などを行った。20日にはオンライン講座、子ども

の本のお仕事相談室」を予定。小松原宏子さん、那須田淳さん、あべ弘士さん、ひろかわさとしさん、かみやにしさん、笹山裕子さんが、子どもたちからの質問に答える。詳細は <https://jiby.org/> まで。



ます。また、前回2018年度版に続き、今回も図書館学・司書課程の講座が開設されている大学などの研究機関にも、お届けする予定です。

刊行後、各都道府県の読書グループ数、活動内容別グループ数などの概況は、当協議会ホームページにも掲載いたします。



事務局報告(2月)

- 4日||2024年度第2回「子どもの読書推進協議会」開催
- 6日||機関紙「読書推進運動」687号 入稿
- 6日||「第70回 青少年読書感想文全国コンクール」表彰式」出席(経団連会館)
- 7日||機関紙「読書推進運動」687号 責了
- ☆7日||第67回「子どもの読書週間」ポスター初校 出校
- 13日||2024年度「国際子ども図書館」子どもの本と読書に関する懇談会」出席
- 13日||絵本図書館ネットワーク 中島進さんと打ちあわせ
- 17日||日本出版クラブ 震災対策室 第3回 運営委員会 出席
- 17日||2025「上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会 出席
- ☆14日||機関紙「読書推進運動」687号 出来
- ☆14日||第67回「子どもの読書週間」趣旨書 入稿
- ☆18日||2024年度 第3回「理事會」☆18日||第67回「子どもの読書週間」ポスター 再校 出校
- ☆26日||第67回「子どもの読書週間」ポスター 責了
- ・27日||伊藤忠記念財団「子ども文庫助成贈呈式」出席(伊藤忠本社ビル)

編集部&事務局の ひとこと

●「ごんを撃つてしまったあと、兵十の気持ちを書きなさい」の宿題に「もう栗やマツタケはもらえないのかと残念になった」と答え、大きな赤いバツをくれた、小学校4年生の姪。定期的な話題になる、小学生の「ごんぎつね」読解力低下問題が身近に……と言いたいところですが、じつは、私自身、40数年前に同じような感想を書いて、同じく大きなバツをくらっており。

●文法以外の国語のテスト・提出物で苦労せず、いわゆる優等生(当時)の私唯一の汚点? がなぜ生まれたか。提出した感想をやり返ると、日本・世界の昔ばなしや伝説にある、主人公が偶然手に入れた「富のもと」を無知や過度の欲で失うタイプの話と同じように受け取ったのではと思っています。

●この手の話はいたい、主人公が富のもとを失って呆然としたり、おおいと泣くのがラストシーンなので、「ごんぎつね」のラスト、兵十が火縄銃を取り落とし、その銃口から後悔と悲しみのようにただ青い煙を重ねたのか。なにを言っても言い訳ですが、自分なりの根拠はあったのでしょうか。

●この感想を掘りさげれば、兵十に対するごんをいたすらは栗やマツタケで贈えるのか、ごんが食材を持ってきていたことを兵十が知っていたら許していたのかなど、いくらでも発展しそうです。読解力の低下を嘆くだけでなく、なぜそう思ったか子どもと「ごんぎつね」を語りあうとおもしろい発見があるかも? (伸)